

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401657		
法人名	有限会社 パートナー		
事業所名	グループホーム「さくらはうす」		
所在地	長崎県南島原市有家町山川1番地		
自己評価作成日	平成24年1月13日	評価結果市町村受理日	平成24年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成24年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者も職員も笑顔で過ごせる様に、事業所の基本理念でもある『笑顔』を大切に考えている。また同時に毎年事業所としての方針を出し目標としているが、それにもお互いが思いやりをもって…と掲げている。どうしても理想論となりがちだが職員1人1人が実現できる！実現しようと思ってもらえる様に、お互いの想いを大切に掲げている。毎月の行事も担当のスタッフがアイデアをだし楽しめる様に工夫している。今まで4回実施している夏祭りも地域の子供達など100名前後が来てくれて、楽しい時間が過ごせている。今後は家族にもっと参加して頂ける様に働きかけを行いたい。ケアについても質の向上を目指し、内部での研修に取り組みしたり、記録用紙の工夫をするなど現在勉強中のホームである。また地域で独自の(ショートステイ・デイサービス・グループホーム)機能を持つ施設として、地域のケアマネさんに浸透しつつあるが今後も一層頑張っ、利用者の1人1人のニーズに合わせた柔軟な対応ができる施設として、頑張っていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

南島原市有家町にあるグループホーム「さくらはうす」に到着すると、リビングで過ごされている方々(ご利用者)が笑顔で手を振って下さり、ホームの中の温かさが外にも伝わってきた。ホームの駐車場は広く、夏休みのラジオ体操の場所として使っており、ご利用者も1人1人カードを持ち、子供達とのラジオ体操を楽しんでいる。子供達から直接カードにシールを貼ってもらう時のご利用者の嬉しそうな表情は、毎年恒例となっている。ご利用者の笑顔を引き出すための取り組みは続けられ、ご利用者が長年楽しまれてきた趣味活動が継続できるように、地域の囲碁会への送迎を職員が行っている。日々の生活の中でも、食事の後片付けや洗濯物たたみなどの役割を担って頂いており、介護計画にも盛り込まれている。家族との関係も大切にしており、“家族の愛情に包まれた写真を飾る”“家族の面会後は話題にする”など、温かい内容の介護計画も作られている。ご利用者の笑顔を引き出すアイデアは増えており、“笑顔かえし”が日々溢れたホームとなるよう、代表は職員の良い所を見つけ、職員1人1人に自信を付けさせ、より良いチームワークとなるような環境を作り続けているホームであった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>代表者、職員全員で、自分たちが介護するにあたって大切にしたいことは何ですか？と問い、キーワードとして出した言葉を理念に掲げ、ホームの中に掲示し、スタッフの名札の裏にも入れていつでも目に入る様にしている。その理念に基づき言葉遣いや態度に気をつける様にしている。理念を作った当時のスタッフと現スタッフとは入れ替わりがあるので、理念への思い入れの気持ち共有できているか心配である。</p>	<p>“笑顔かえし”という理念を基に、職員の1人が素敵な絵を描いて下さった。その絵のように、“みんな笑顔で、思いやりをもって、声をかけあい、ひとつひとつの時間を一緒に過ごしましょう 人と人のつながりの大切さを考えて”、職員も日々実践に努めている。“家族、地域の方とも笑顔かえし”と言う意味も込められている。</p>	<p>今後は更に、理念について考える機会を定期的に持ち、職員1人1人の想いに浸透するようにしたいと考えられている。それぞれの職員が役割を担っていく中で、職員個々が自信を持てる環境を作っていく予定にしている。</p>
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>地域とのつながりを少しでも持つ様に検討している。今年で4回目の夏祭りは地域の子供たちを中心に100名前後の参加もあり大盛況であった。今後は地域の恒例行事になれるよう頑張りたい。また夏休みのラジオ体操の場所になっていて、子供達から直接カードにシールを貼ってもらい、嬉しそうなお表情がみれた</p>	<p>ホームの外を歩かれている地域の方と挨拶をしたり、散歩の時に会話を交わす関係が作られてきている。23年度はホームの駐車場に子供神輿の休憩所を設け、担ぎ手の子供たちにジュース等を振る舞い、ご利用者もお神輿の見学をゆっくり行う事ができた。毎年の夏休みラジオ体操も好例で、ご利用者も楽しみにされている。</p>	<p>中学校の福祉体験も受け入れており、子供たちがホームに来て下さっているが、こちらから小中学校に出向く機会を作りたいと考えられている。今後はもっと、地域の方に認知症やホームの事を理解してもらえよう、働きかけの仕方を考えていく予定である。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域の中学校の福祉体験施設としてホームを提供している。今年6名の中学生を受け入れ、2日間の実習を行った。</p>		
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1度のペースで行って、事業所で起こった事故の検証などを行っているが時間の都合がつかずなかなか参加者が少ないのが現状である。</p>	<p>家族の方にも会議に参加頂いているが、共働きの家族も多く、昼間の会議への参加が難しい状況になっている。参加できない家族には資料を送付している。災害時の対応についても検討が行われ、飲料水、食糧、毛布の備蓄を行い、食糧については運営推進会議で試食も行われた。</p>	<p>会議の場を活用して、市役所の方と家族の交流ができ、悩み相談の場になればと考えられている。会議の時間帯についても、家族の参加しやすい方なども検討していく予定である。</p>
5	(4)	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に出席してもらっているが、地域の居宅介護支援事業所などと比べてうまく連携が取れていないのが現状である。</p>	<p>地域包括主催のケアマネ研修会で、ホームが行っている「認知症対応型通所介護」の報告を行ったり、ケア発表会でも「進化するグループホーム」という研究報告を行った。認知症サポーターの養成講座をホームで開催してもらえようように働きかけを続けており、不明点がある場合は、積極的に行政の方に意見を伝えている。</p>	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>代表者は身体拘束廃止推進員の養成研修を修了。研修会に参加し以前より理解は深まりつつある。日中の施錠や入居者の行動の制限は行わない様に気をつけているが、言葉の拘束についてはまだ知らないうちに行っている事がある。</p>	<p>職員も研修に参加し、言葉の拘束についての理解も深めている。日頃の行動や言動についても、“これは身体拘束の行為にならないだろうか”と考えるように努め、それに代わるケアはないかを考えている。ベッドからの転落防止の柵の代わりに、職員と家族と相談し、ベッドの下にマットレスを設置する方法が取られた。</p>	<p>行動や抑制については身体拘束と理解しており、言葉の語調が強くなる時にも、代表等は日頃から職員に注意を続けている。職員自身の目標として“言葉遣い”を挙げている職員もあり、今後も言動の振り返りを続けていく予定にしている。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束と共に高齢者虐待の研修も受けているが、高齢者虐待防止法としては浸透していない。だが虐待は絶対にダメという想いはスタッフがもっていて、入居者の様子にも気を配っている。だが拘束と同様言葉や態度までの充実を図りたい。</p>		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度についてはあまりなじみがなく理解と活用には至っていないが、昨年末に入居された方が権利擁護を利用されていて、担当職員がホームを訪れる機会が増え、今後理解を深めるチャンスではないかと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームの中の見学から始まり、重要事項説明書を使って説明を行っている。その際には家族からの質問や疑問に丁寧に答えている。また制度の改正時には、公文書ではなく、ホーム独自に分かりやすい文章を作成し説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見が出やすい様に、毎月ホーム便りや各担当スタッフ直筆の月時報告書も発送している。玄関に相談BOXを設置しているが、なかなかご家族からの意見は出にくいのが現状である。	「ホームで飲酒をしたい」と希望された方には、飲酒希望量を確認し、主治医に相談を行うなど、願いを叶えられるような取り組みを続けている。面会時に家族に意見や要望を伺うと共に、2年前に家族アンケートも行われたが、退居した方へのアンケートも検討されており、率直な意見を伺いたいと考えられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回スタッフ会議を行い、介護や行事その他の事項など意見交換を行う様に努めている。また年に2回程度、個別に面談も行っているが、苦情や意見が聞き取りにくい。代表者や管理者に直接言っていない苦情が多い様に思われ、反映は難しい。	この3年離職がなく、勤務年数の長い職員も多く、毎月のスタッフ会議で職員間の情報交換を行っている。個々の職員の事情に合わせて、シフト調整(短時間勤務)をするなど、働きやすい職場作りに心がけており、職員の良い所を見つけて役割を担って頂いている。職員のアイデアは豊富で、日々運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況等に合わせて勤務状況の整備を行っている。前月に休みの希望も取りそれに沿ったローテーションを作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の紹介を掲示したり、職員回覧にしている。できるだけたくさんの研修に参加してもらえる様に参加費は事業所が負担しているが、なかなか参加できない事も多い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島GH協議会に加入し同業者とのネットワーク作りを心がけている。研修会の参加や風船バレー大会の実行委員交流会など参加しているが、1部のスタッフのみである。交流をと思っても、スタッフ自体もまだまだ消極的である。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの導入前には本人や家族と話すようにして、アセスメントではなく本人(家族)の主訴を聞く様に心がけている。また本人が譲れない習慣などは特に大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前にご家族と話す機会を必ず設け、不安がない様にしている。これまでの経緯を含めた介護の苦労話なども聞く様にして、ご家族の求めるサービスとは何かを考える様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	従来のグループホームの機能だけではなく、GHの空床利用のショートステイや認知症対応型のデイサービスなど多様なケアで対応している。また地域の病院の連携室やケアマネとの連携もできつつあり、柔軟な対応ができる様になっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の後片付けや洗濯物たたみ等、共に暮らすという観点から、入居者と職員の協働の場面を設けている。また隣に座ってテレビを見るという何気ない時間も大切と思っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の様子を写真入りのホーム便りや月時報告書で詳細に伝えている。ご家族との面会時に写真を撮り、居室に飾る事で常に家族の愛情が感じられる空間づくりを目指している。面会や行事への参加など呼びかけてはいるが、遠方の方も多く共に支える・・・はなかなか難しい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの関係をできるだけ途切れない様にする為、囲碁会への送迎や電話連絡はいつでも行っている。特に面会時間の制限など行わず、いつでも訪問できる様な環境を整えている。	家族からの電話を楽しみにされている方もおられ、家族の付添いにより墓参りや知人のお見舞い、外食なども楽しまれている。日常的な買い物や散髪などの支援もしており、以前参加されていた趣味の集まり(囲碁会)を訪問した時には、活動の近況報告や文化祭への参加の呼びかけをして頂いた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	殆どの入居者が居室で過ごすことなく、自然にリビングに集まって過ごされている。座る場所も自分の位置がある様で、入居者同士の理解もみられる。またレクリエーションでは互いに応援する場面もみられる。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時にもアセスメントの掲示などを行って継続的なケアができる様に努めている。またその後の様子に応じて、ホーム側からケアマネや包括支援センターに情報提供を行っている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日関わりも持つなかで1人1人の思い、意向の把握ができる様に、表情、会話などに注意をしている。	ご利用者は、入浴時や夜勤の時などにゆっくり思いを話して下さる。職員への質問(出身地)もあり、そこから話が発展する事も多い。ご自分の体調を心配される方もおられ、足腰が弱くなり、散歩を断る方もおられるが、レクや体操は楽しまれている。今後も真の思いを把握し、楽しみの場(笑顔かえし)を増やしていく予定である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人からこれまでの本人の生活歴や様子を聞き、本人像の把握に努めている。また馴染みの環境にも配慮し、自宅からの家具や寝具の持ち込みを行ってもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入浴の温度・順番、就寝時間、お昼寝の時間など日々の介護の中で本人の生活リズムの把握に努める様にしている。表情や動作の様子などから心身状態を把握する様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人(家族)の思いを聞き介護計画に反映させている。計画作成担当者と担当職員でアセスメントの情報共有を行い、ケアマネが介護計画書へ込めた思いも各担当者に伝える様にしている。もっとチームでの計画づくりを行いたいが、今現在はその準備段階である。また介護人材の不足からあってはならないが、介護計画書の作成が滞りがちになり、計画作成担当者としても歯がゆい現状である。	“地域で暮らす”と言う視点を大切にしており、現在は書道クラブへの参加ができないか、地域包括に相談中の方もおられ、実現時には計画に追加予定である。“家族の愛情に包まれた写真を飾る”など、家族との関係性を大切にした内容も盛り込まれている。今後は、職員と一緒に計画作りができる方法を検討予定である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録だけではなく、より簡単に入居者の変化がつかめる様に申し送りノートを作成している。マーカーで色分けして事故や体調の変化、病院受診など分かる様にしている。今後はヒヤリハットやケアプランに対する意見なども記載できる様に現在新用紙の準備中である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外出や外食などの準備など対応している。通所サービスの延長や夕食の提供、またショートステイの受け入れなど行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	もっと地域の資源の活用につなげたいと、包括支援センターの職員の方に地域資源の情報提供をお願いしている。日本訪問歯科協会の歯科往診を利用している。また地域の文化祭の展示会を見に行ったりして、生活の中の潤いになる様に心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の救急病院や個人病院など複数の医療機関に協力医の契約をしている。かかりつけ医は基本的に本人の今までの関係性を大事にしている。嘱託医は月に1、2度程度ホームに往診に来ていただいている。また今年度は訪問歯科の導入も行っている。	往診の時に職員が日頃の状況を報告している。胃ろう時の体位等のアドバイスも頂いており、職員は研修時に医療の勉強も続けている。受診介助は職員がしており、検査や入院の時は家族に同行して頂いている。毎月発送する月時報告書にて受診内容を報告し、緊急性のある場合は電話連絡をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に准看護師と看護師を配置している為に、週のうち4、5日程度は日中看護職員がいる為に、なにかあった時などの対応や処置についての相談はしやすい環境となっている。対応等については申し送りノートに記載し職員で情報共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの様子やアセスメントの提供を行って、必ず職員が付き添う様にしている。入院期間中は家族との連絡を密に行う様に努めている。最近では病院側があまり情報の公開を行わないのでなかなか様子が分かりにくい面もあるが、退院時には職員が迎えに行き今後の事などを相談し安心できる様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療併設でもない単独のホームの為なかなか看取りには取りかかりにくいが、単独ホームでできる看取りの指針を理解して頂いて家族とともに行うようにしたい。以前看取り直前までのケアを体験しホームの指針を一新し、推進会議でも話し合いを行った。今後は職員の共有を深めたい。	入居時に看取りの指針を説明し同意を頂いているが、終末期には主治医の判断を踏まえ、計画作成担当者が再度ご家族に説明している。ご本人にも意向を確認しており、「家族に看取ってもらいたい」等の思いがセンター方式に残されている。終末期には、最後までお部屋のトイレを利用し、部屋の外に大好きな干し柿を吊るすなどの配慮も行われ、ホームで対応できる事をぎりぎりまで行わせて頂いた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時のマニュアルを作成し、職員全員が普通救急救命の研修会に参加しているが、実践力と夜間の1名での対応は不安がある。しかし今年度は自分たちの力のなさに着目した誤嚥の処置などの研修会の開催を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会いの下消火、避難訓練を行っているが、入居者の体調の悪化や職員の配置などさまざまな要因で最近では訓練自体が滞っている。その他の災害を想定してのセーフティーボックスを作っている。また写真入りのアセスメント表の名札を作ろうと検討しているが実現まではまだ至っていない。	リビング外のテラスの一角にドアが付けられ、そのドアからも避難できるようになった。昼間想定は2回行われており、23年12月には、職員・ご利用者・消防職員と一緒に自動通報装置を使用し、職員が部屋の隅に残り発見できるかなどの確認も行われた。災害時に備え、水や非常用御飯等が準備されている。	訓練時には消防署の方に立ち会って頂いているが、今後は身近な消防団などにも協力をお願いしていきたいと考えられている。昼間想定は訓練だけではなく、夜間想定も行って行く予定である。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを考えた言葉かけを行う様になっている。一方的な介護者の言葉はない様に、ご本人に同意の言葉をかける様に心がけている。	言葉の力は大きい事を職員は理解しており、“知らず知らず..”を放置しないように心がけている。羞恥心と自尊心を大切にされた声かけも行われており、失禁や衣類の更衣などの対応は、さりげなく居室や脱衣所に誘導し行っている。家事などの手伝いを行ってもらった時は、必ず「ありがとう」の感謝を伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションでの好みの色や形を選んだり、おやつを好きなものを選んだり、小さなものではあるが自己決定の機会を設ける様にしている。難聴や本人の言葉が聞き取りにくい方に対しては職員が本人の気持ちをくみ取る様に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な業務の流れはやはりあるが、就寝の時間や昼食後の過ごし方などその中の本人らしい過ごし方ができる様に支援している。夕食に宅配を導入したことにより職員の気持ちに余裕ができ、午後の時間を利用して散髪や買い物など出かける事が出来る様になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の着る服を本人に選んでいただいている。入浴の際の着る服には入居者の好みが見られる。また、外出の際の服装や散髪に出かけ、顔そりやひげそりのオプションを楽しまれる方もいる。服装が単調にならない様に今後は一層の注意を行う様にしたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆で食卓を囲むという基本的な事を大切にしている。配ぜん前の準備や下ごしらえなどから食器の片付けまでできるだけお互いに協力しながら行う様にしている。	食事を美味しく食べる事を大切にされている。職員も一緒に食べながら、「おいしいね」「ちょっと辛い？」などの会話を楽しまれている。夕食のみ宅配を利用したことで、午後の時間は買い物などに出かける事ができている。レストランにおやつを食べに行くこともあり、お誕生日には希望のメニューが作られている。	今後は畑作りに取り組み、野菜などの収穫を楽しんでいきたいと考えられている。水やりも含め、外に出る機会が増えることも期待できることから、ご利用者と一緒に取り組んでいく予定にしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の状態に応じてカットしたりミキサーにして対応している。また箸が使えない方にはスプーンを提供したり手づかみでも良い様におにぎりしている。また本人が気にならない様に口や手の汚れには配慮し、おしぼりを置いている。嫌いな物を把握し代替メニューも提供してできるだけ食事が食べられる様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人1人に応じた対応(言葉かけ、見守り、介助)を行い歯磨きだけではなく、洗口液をつかったうがいなども行っている。また訪問歯科の導入も行い必要に応じて定期的な歯科検診やケアの助言をもらっている。また胃ろうの方にも変わらない口腔ケアを実施している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にトイレでの排泄を心がけている。いろいろなタイプのオムツを使用したり、排泄表の記入により職員が簡単に排泄の様子が把握できる様になった。一定の時間誘導は行わない様にしているが、まだまだその方に合わせたパターンには至っていない。	各居室にトイレがある。自分の部屋のトイレを利用されている方が多く、排便状況もご本人が教えて下さっている。職員間でご利用者の排便状況を把握し、リハビリグッズからパッドに変更できた方もおられ、状態に応じてパッドの種類の見直しも行われている。トイレでの排泄を大切にされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動が行えるように毎日のレクリエーションでラジオ体操を行ったり、週1回ヨーグルトの定期提供、また個人での牛乳の購入、食事に果物を取り入れたりと工夫している。また排泄時に腹部マッサージなども行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯や曜日にも基本的には決まっているが、その中で湯温や入浴の方法(浴槽でのお茶、シャワーのみの希望)など好みを取り入れる様にしている。	お風呂が好きの方が多く、一番風呂を好まれる方もおられ、お風呂場には入浴する方の名札を表示し、ご本人が確認できるようにしている。負担が少ないように、シャワーキャリーでの移動や昇降リフトを導入しており、同性介助を希望される方は職員が交代して支援を行っている。入浴時はなるべく会話を楽しくしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動し夜間ゆっくり休むを基本としている。高齢者なので日光浴やお昼寝なども取り入れているが、時間を把握し夜間の不眠がない様にしている。不眠の場合は体位交換を行ったり、ゆっくり話をしたり、飲み物を提供したり、職員が無理強くない様に心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人に服薬シートを作成し個人ファイルに入れて職員がいつでも目を通せるようにしている。また薬の事で分からないことは調剤薬局の薬剤師にいつでも聞ける様な関わりを持っている。服薬に関しては間違いがない様に確認し手渡したり介助にて支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の興味や得意分野に合わせた仕事をお願いしている。趣味活動も行える様に囲碁会へ週1回送迎を行ったり、現在は新たに書道クラブに出かけられないか包括支援センターの職員に相談中の方もいる。またお酒も体調に注意しながら基本的に自由を楽しめる様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の買いたい物がある場合はその日のうちに一緒に行く様にしている。都合によりいけない場合はいつ行くかの予定を本人に伝える様にしている。また御家族の付添いにより墓参りや知人のお見舞や外食などはドンドン出かけられる様に言葉をかけている。	四季折々のお花見や地域の行事には積極的に出かけている。雲仙に紅葉見学や地獄めぐり、島原での梨狩り、地域の文化祭なども楽しまれ、日常的な買い物や囲碁会への参加、友人のお見舞、散髪など、個別の外出も行われている。今後も、季節に応じて、色々な果物の収穫を楽しんでいきたいと考えられている。	

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>その方に応じた金銭の支援を行っている。ホームで管理の方、自分でおこずかいとして使われる方、などさまざまである。また外出の際には自販機で飲み物を自分で購入して頂き、お金との接点を絶やさない様にしている。また現在は権利擁護の支援を受けている方もいらっしゃる。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族や知人からの電話は聞き取りにくい場合は職員が仲介して支援している。個人で携帯電話を所持している方もいたり、家族から毎日決まった時間に電話があり楽しみにされている方もいる。また暑中見舞いなどを発送しつながりを大切にしている</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用のリビングには和室やソファがあり、天気の良い日には思い思いに椅子を移動して日光浴を楽しまれている。また施設感が出ない様に適度な飾りや掲示物の工夫をしている。LDKの様な作りなので適度に生活感が感じられる様になっている。また居室の目印も立体的なもので示している</p>	<p>リビングは天井も高く、広い空間が造られている。ご利用者は、ソファや畳、テーブル席など、思い思いの場所で過ごされている。日向ぼっこを好まれる方も多く、窓際を好んで座られる方も多い。日常的な音(まな板の音、掃除機の音、話し声)にこだわり、不必要な大きなテレビ音などが無いようにしている。干し柿などの季節の物を飾り、季節感を感じて頂いている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>1人1人が決まった位置に座られているが、職員が誘導するのではなく自ら落ち着く定位置となっている様に思われる。また居室で自由に過ごすこともあったり、天気の良い日はテラスに出たり、廊下にもベンチが配置されている。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>限られたスペースを自分なりに過ごしやすく工夫されていると思われるが、持ち込みの物が多い方とそうでない方がいらっしゃる。ご家族に依頼をしても新調される場合があり馴染みの物の大切さを今後もっと伝えられる様にしたい。</p>	<p>自室がわからない方には、入り口に立体的な飾りをつけたり、家族との写真やカレンダーなどを壁に貼るなどの工夫がされている。家族の方に馴染みの品の持ち込みを依頼しており、タンスや鏡台、寝具、電化製品、神棚や仏壇などの大切な物をお部屋に持ち込まれている方もおられる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物はバリアフリーであり各所に手すりやナースコールがついていて安全面に配慮している。また個々の居室の名札の高さを変えたり、目印を付けるなど工夫している。</p>		

事業所名: グループホーム「さくらはうす」

作成日: 平成 24 年 3 月 12 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	(15)	食事も皆で食卓を囲み楽しむという姿勢は持っているが、さらに入居者が食べることへの楽しみが持てるような支援を考えたい。	毎日「畑に行かないと…大根が…」など言われる方の想いを考え、ミニ家庭菜園などやってみて、実際に苗を育てたり、水をやったり、収穫したりと土に触れる機会を持ってみたい。またいろいろな食の楽しみも見つけていきたい。	ミニ家庭菜園の担当職員を決め、皆で協力して野菜など育ててみたい。また、入居者と一緒に外食など楽しんでみたい。	3 ヶ月
2	(3)	運営推進会議も入居者の方の家族が他県在住であったり、独居の方も多く家族の参加がなかなか困難で、参加者が少ない場合が多い。	運営推進会議がもっと参加しやすい会になる。	参加者の状況を行政担当者に説明し、もっと参加しやすい会にできる様に時間帯など検討しては…など運営推進会議の議題にあげ話し合ってみたい。	3 ヶ月
3	(5)	身体拘束の研修会に職員も参加し、以前より理解は深まりつつある。入居者の行動制限など行わない様に気をつけているが、言葉の拘束に関してはまだまだ知らないうちに…ということもみられる。	何気なく発する言葉にも身体拘束が隠れている事に注意してケアにあたる様にしたい。身体拘束の奥深さを理解していきたい。	行動の制限や何気なく発する言葉も身体拘束になると認識しつつある為に、今後一層その気持ちを持って介護に当たる様にさらに研修等に参加していきたい。また日々の介護の現場で発せられる言葉についても随時気を付け注意していきたい。	6 ヶ月
4	(13)	昼間想定 of 訓練だけでなく、夜間想定 of 訓練も行うようにする。	夜間想定 of 消防避難訓練を実施し、夜間の火災の恐ろしさ、大変さを認識していきたい。	夜間想定 of 訓練を実施し、職員も実際に自宅からのホームへの到達時間も考えてどれくらいの時間がかかるか火災避難訓練を実施していきたい。	6 ヶ月
5	(15)	運営理念をつくった当初の職員と現在の職員に入れ替わりがあり、その後運営理念に込められた想いなどの共有が不十分に思われる。	運営理念とは、運営理念に込められた思いなどを考える機会を持ち、職員1人1人に浸透する様にする。	ホームの運営理念ができた道筋やその理念に込められた想いなどを共有する機会を持ち、職員1人1人が改めて理念について考える様にする。	10 ヶ月

優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
6	(2)	事業所と地域のつながりが受け身のつながりが多い様に思われる。	受け身のつながりだけではなく、ホーム側から積極的に地域に出てもっとグループホームの事を知ってもらえる様にしたい。	地域の小学生などの行事に参加できる様に考えたい。また年末の餅つきなどは地域の方や子供達と一緒にいって行って交流を深めたい。	12 ヶ月